

都市計画上の課題の整理

(1) 上位計画

・高岡市総合計画-基本構想では、次のように3つの「強み」と6つの「課題」を設定している。

本市の【強み】

○〈文化力〉底力を見せる町民文化

…町民による「まちの個性」としての文化の継承、町民による「自治」の精神の体現
町民文化としての「自治力」向上と時代に合わせた文化の再構築による新たな高岡の創造

○〈創造力〉「稼ぐ力」を持つものづくり産業

…稼ぐ力の高いものづくり産業の集積、銅器や漆器といった伝統産業の高い技術力
知名度、認知度、求心力の向上による他都市との差別化

○〈市民力〉高い地域力が生む住みやすさ

…子育てや教育に関する生活環境の充実、住みやすさに対する全国的にも高い評価
ゆとりある暮らしの維持による選ばれ続けるまちの実現

本市の【課題】

○若者世代が共感する活力創出（若者の流出）

…進学や就職に伴う若者世代の転出、労働力人口の減少に伴う経済活力の低下
急速な人口減少の抑制、人口減少下においても安心・快適に暮らせる活力ある地域社会の維持

○中心市街地のリノベーション（「たかまち」の空洞化）

…中心市街地の居住人口の減少や空き家の増加、交流拠点としての役割の低下
中心市街地のストックの最大限の活用

○周辺市街地の躍動（地域の拠点性の弱体化）

…周辺市街地に集積された各種施設、各地域の生活サービス拠点としての役割の低下
人が住み続けてきた歴史や伝統を踏まえた地域拠点としての求心力向上

○高岡駅・新高岡駅の相乗的利活用（交通結節機能の分散）

…関東圏からの観光客の増加、新高岡駅と高岡駅の役割分担の明確化
新幹線開業効果を最大限に活用した新たな交流・創造

○ものづくり産業の復興（製造業の低迷）

…ものづくり産業の再生、競争力の強化による雇用、所得の創出
雇用力のあるサービス業や経済波及効果の高い観光分野への展開

○地域力の再構築（地域のつながりの希薄化）

…その土地の歴史や風土を反映した伝統文化、文化・教育・防犯・防災など「共助」の希薄化
地域資源を磨くことによるコミュニティにあり方の模索

(2) 住民意向

- ・総合計画策定時に実施したアンケートでは、本市の「住みよさ」に関する設問の後で、「住みよい」、「住みにくい」と回答した回答者に対してそれぞれの理由を質問している。
- ・その結果から、住民意向から見た本市の「強み」と「課題」を次のように整理することができる。

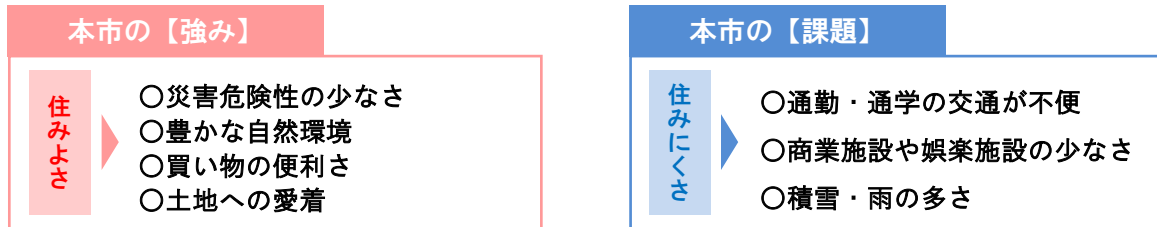
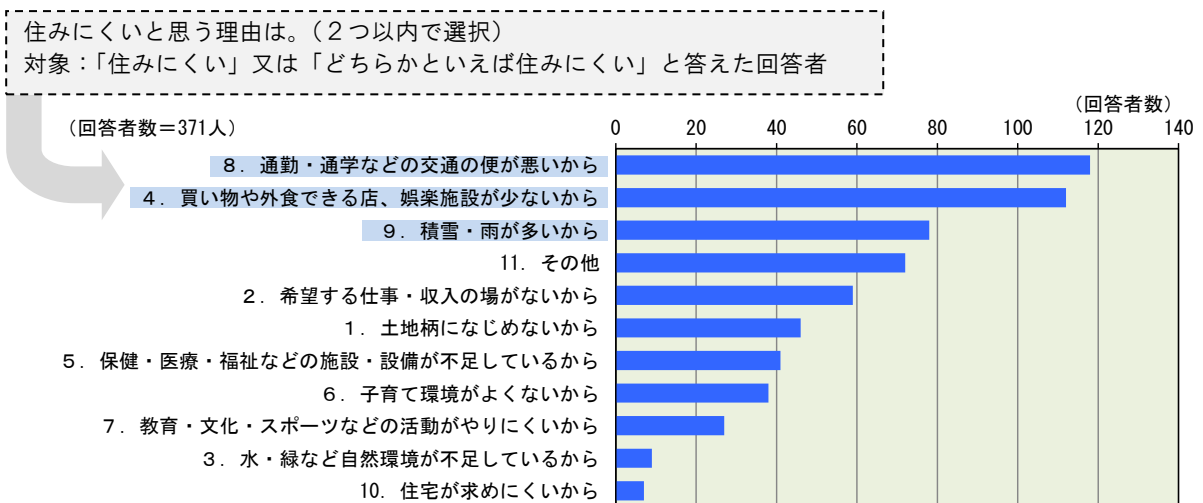
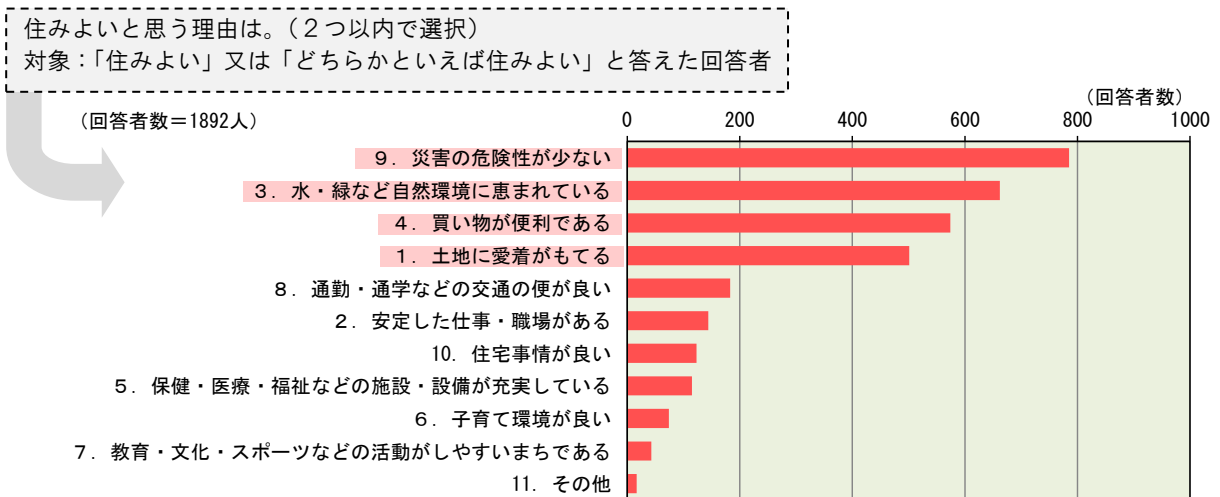


図1 「住みよいと思う理由」と「住みにくいと思う理由」



(3) 都市概況

・前回報告した都市の概況からは、本市の「強み」と「課題」を次のように整理することができる。



強み 県内2位の産業集積

- ・工業、商業の集積（表1・2）では県内2位に位置しており（工業の製造品出荷額等は県内3位）、県西部で最も産業が集積する中核的な都市となっている。
- ・製造業の中では、金属製品製造業、プラスチック製品製造業、化学工業、非鉄金属製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業の集積が大きく、地域外からの資金獲得の面でも貢献している基幹産業となっている（表3）。
- ・特に金属加工関連は、全国的にみても付加価値額や従業者数の特化係数が高く、「金属加工の分野でできないことはない」といわれるほど集積が進んだ分野となっている。

表1 県内工業集積の比較

都市名	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	実数 (所)	構成比	実数 (人)	構成比	実数 (億円)	構成比
富山県	2,812	100.0%	119,663	100.0%	35,672	100.0%
高岡市	515	18.3%	15,251	12.7%	4,339	12.2%
富山市	814	28.9%	39,652	33.1%	11,661	32.7%
魚津市	115	4.1%	4,150	3.5%	1,339	3.8%
氷見市	140	5.0%	4,189	3.5%	896	2.5%
滑川市	119	4.2%	6,568	5.5%	2,806	7.9%
黒部市	112	4.0%	9,839	8.2%	1,858	5.2%
砺波市	158	5.6%	5,023	4.2%	1,886	5.3%
小矢部市	135	4.8%	4,644	3.9%	844	2.4%
南砺市	228	8.1%	8,051	6.7%	2,429	6.8%
射水市	253	9.0%	12,141	10.1%	4,837	13.6%
その他 町村部	223	7.9%	10,155	8.5%	2,777	7.8%

表2 県内商業集積の比較

都市名	事業所数		従業者数		年間商品販売額	
	実数 (所)	構成比	実数 (人)	構成比	実数 (億円)	構成比
富山県	11,093	100.0%	72,669	100.0%	27,584	100.0%
高岡市	2,099	18.9%	13,999	19.3%	4,621	16.8%
富山市	4,136	37.3%	32,145	44.2%	15,671	56.8%
魚津市	519	4.7%	3,177	4.4%	799	2.9%
氷見市	524	4.7%	2,400	3.3%	387	1.4%
滑川市	295	2.7%	1,714	2.4%	313	1.1%
黒部市	355	3.2%	2,055	2.8%	530	1.9%
砺波市	475	4.3%	3,249	4.5%	1,000	3.6%
小矢部市	329	3.0%	1,606	2.2%	504	1.8%
南砺市	665	6.0%	2,674	3.7%	462	1.7%
射水市	942	8.5%	6,020	8.3%	2,531	9.2%
その他 町村部	754	6.8%	3,630	5.0%	765	2.8%

（資料：H26 工業統計、H26 経済センサス）

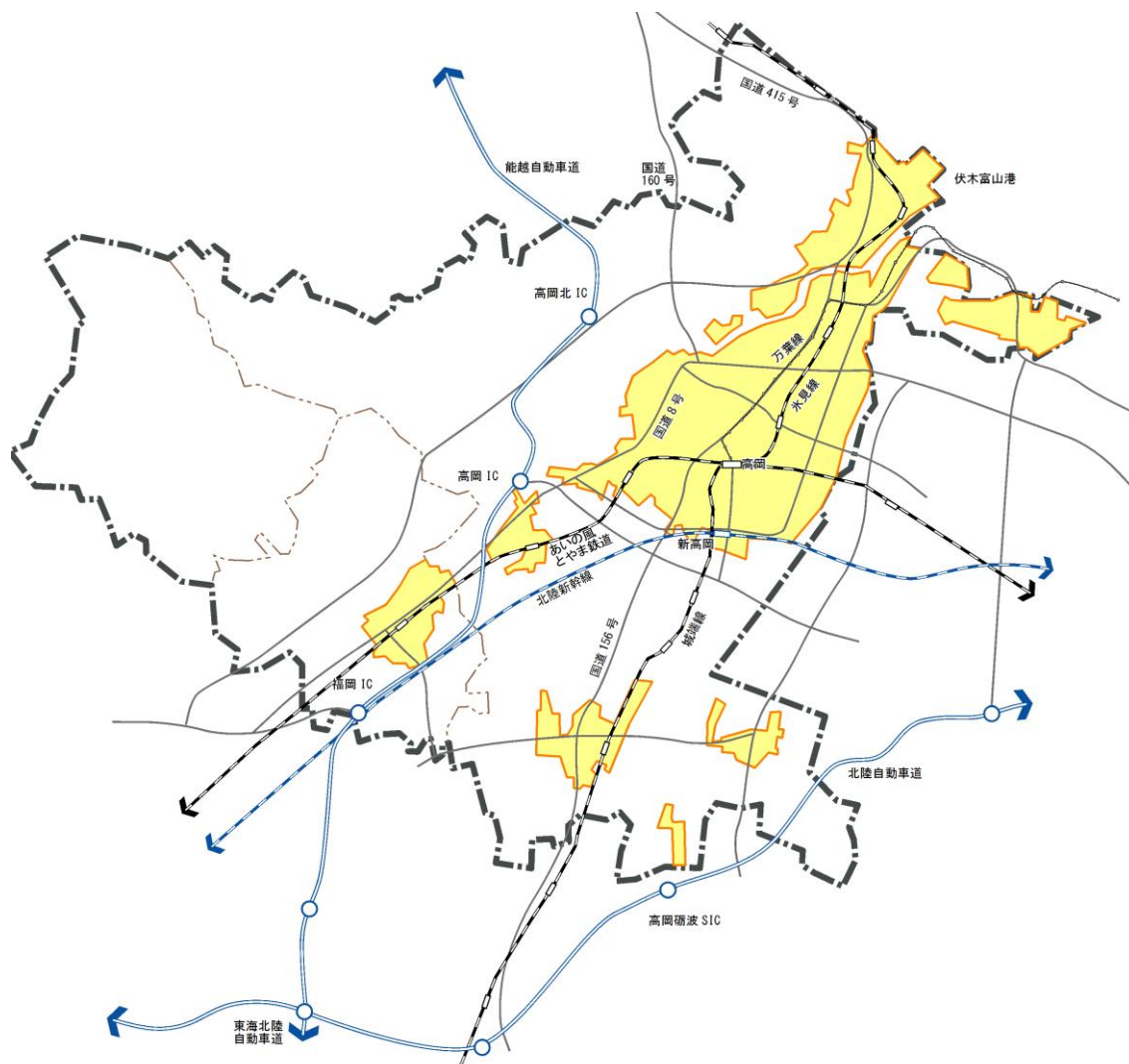
表3 製造業中分類別特化係数

産業中分類	対富山県				対全国			
	事業所数	従業者数	製造品出 荷額等	付加価値 額	事業所数	従業者数	製造品出 荷額等	付加価値 額
製造業計	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
食料品製造業	0.57	0.61	0.45	0.53	0.54	0.31	0.22	0.20
飲料・たばこ・飼料製造業	0.26	0.14	0.00	0.00	0.19	0.10	0.00	0.00
繊維工業	0.69	0.70	0.54	0.64	0.61	0.79	0.91	0.82
木材・木製品製造業（家具を除く）	0.81	1.77	2.08	2.10	0.85	1.75	2.26	1.83
家具・装備品製造業	0.69	0.90	0.54	0.55	0.71	0.83	0.80	0.54
パルプ・紙・紙加工品製造業	1.98	1.85	3.94	3.60	1.91	2.50	6.68	5.69
印刷・同関連業	0.65	0.46	0.32	0.34	0.44	0.25	0.17	0.15
化学工業	0.68	1.09	1.10	1.10	1.18	2.67	2.00	1.99
石油製品・石炭製品製造業	0.42	0.55	0.00	0.00	0.42	0.16	0.00	0.00
プラスチック製品製造業（別掲を除く）	0.79	1.01	2.07	1.94	1.00	1.37	3.47	2.73
ゴム製品製造業	0.42	0.38	0.00	0.00	0.16	0.21	0.00	0.00
なめし革・同製品・毛皮製造業	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
窯業・土石製品製造業	0.67	1.56	1.29	1.40	0.75	1.28	1.25	1.17
鉄鋼業	1.69	1.80	1.08	1.65	1.58	2.20	0.91	1.67
非鉄金属製造業	3.33	1.29	0.98	1.03	8.03	4.87	3.55	3.08
金属製品製造業	1.62	1.88	1.48	1.60	2.02	3.29	3.27	2.62
はん用機械器具製造業	0.60	0.30	0.26	0.30	0.55	0.30	0.37	0.34
生産用機械器具製造業	1.00	1.06	0.86	0.92	1.24	1.35	1.48	1.65
業務用機械器具製造業	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0.12	0.01	0.00	0.00	0.18	0.01	0.00	0.00
電気機械器具製造業	0.45	0.30	0.51	0.55	0.31	0.11	0.13	0.14
情報通信機械器具製造業	0.91	1.95	0.00	0.00	0.52	0.35	0.00	0.00
輸送用機械器具製造業	0.25	0.29	0.17	0.23	0.11	0.09	0.03	0.05
その他の製造業	1.97	0.56	0.23	0.30	1.64	1.29	0.65	0.82

（資料：H26 工業統計）

- ・北陸自動車道と能越自動車道が整備され、市内には、高岡北、高岡、福岡の3つのインターチェンジと高岡砺波スマートインターチェンジが開設されている。
- ・平成27年3月の北陸新幹線（長野～金沢間）の開業により、関東方面へのアクセス性が比較的に向上しているほか、今後大阪までの延伸整備によって関西方面へのアクセス性も飛躍的に向上することが期待されている。
- ・その他、市域を東西に横断する国道8号、南北に縦断する国道156号と国道160号の主要道路網や、あいの風とやま鉄道、JR氷見線、JR城端線によって近隣都市と結ばれている。

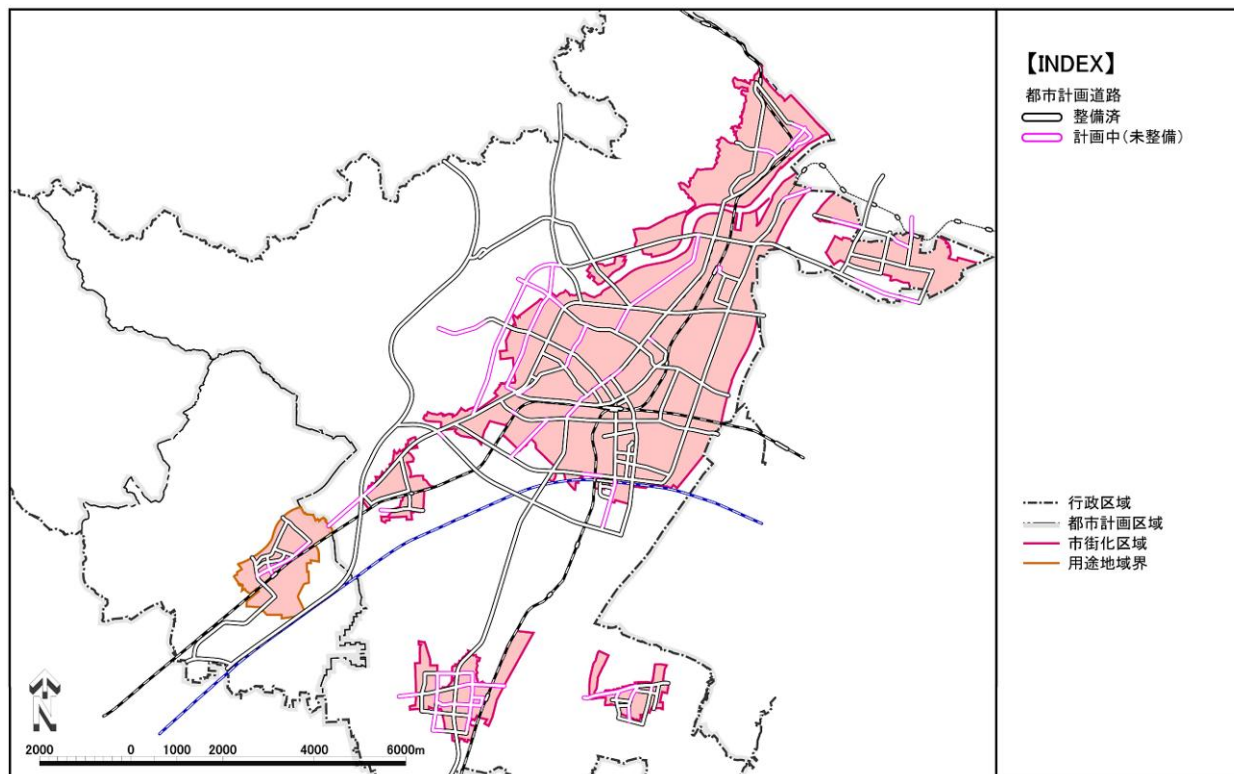
図2 広域交通基盤整備状況



強み 都市基盤の充実

- ・ 合計 80 路線の都市計画道路が計画決定され（図 3）、H28 年 3 月末時点の改良率 77.1%は、県全体及び国全体の改良率を上回る水準となっている（県 75.9%、国 62.9%）。
- ・ 下水道の整備率（表 4）は H28 年 3 月末時点で 79.3%であるが（県 90.5%、国 76.3%）、大規模な工場敷地を除くと、ほぼ全域が整備済となっている。

図 3 都市計画道路整備状況



（資料：H25 都市計画基礎調査）

表 4 公共下水道整備状況（H28.3.31 時点）

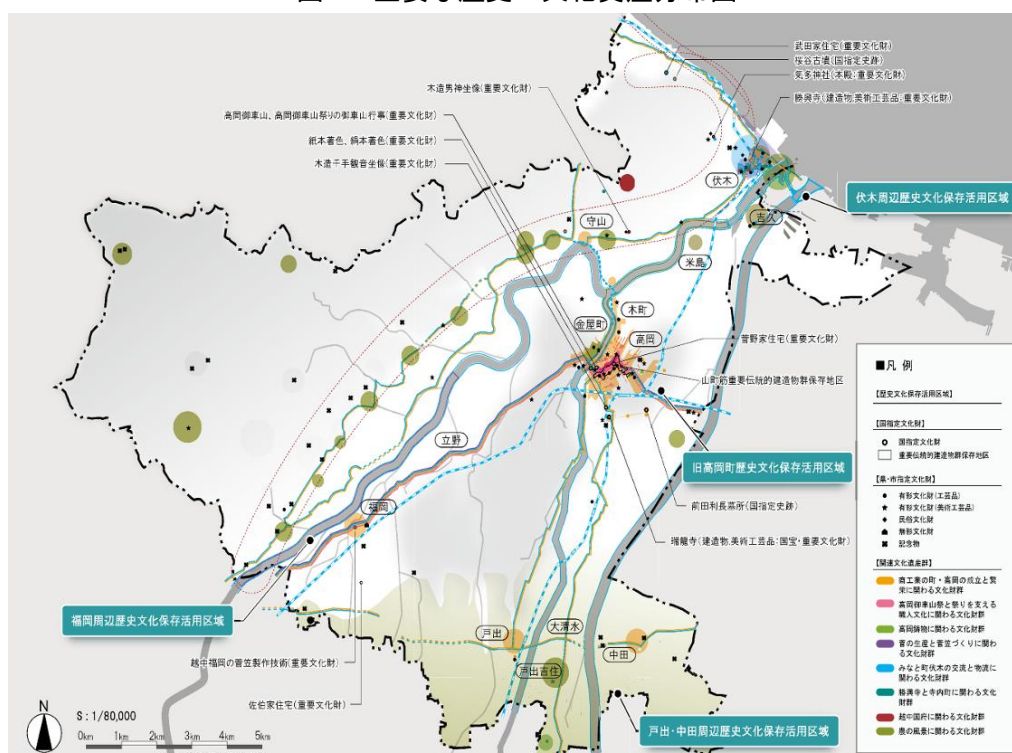
区分	計画決定		施行済		整備率	
	処理面積 (ha)	処理人口 (千人)	処理面積 (ha)	処理人口 (千人)	面積 ベース	人口 ベース
富山高岡広域都市計画区域	3,794	113.9	3,025	127.4	79.7%	111.9%
福岡都市計画区域	254	6.9	184	4.4	72.4%	63.8%
高岡市計	4,048	120.8	3,209	131.8	79.3%	109.1%

（資料：富山県の都市計画（資料編））

強み 多くの歴史・文化資産

- ・市内には、国宝である瑞龍寺、国指定史跡である高岡城跡や加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）をはじめ多くの文化財が分布しており、山町筋と金屋町の2地区が重要伝統的建造物保存地区に指定されている。
- ・また、高岡市街地以外にも、旧福岡町をはじめ、伏木、戸出、中田などの飛び市街地にも多くの文化財が分布している。
- ・国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画（高岡市歴史まちづくり計画）に基づく取組によって、平成27年度には文化庁が創設した「日本遺産」の第一弾に認定されている。
- ・さらに、平成28年12月には、国の重要有形・無形民俗文化財に指定されている「高岡御車山祭の御車山行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されている。

図4 主要な歴史・文化資産分布図



（資料：高岡市歴史文化基本構想）

表5 主要な文化財等

区分	件数	種別	名称
国宝	1	建造物	瑞龍寺（仏殿、法堂、山門）
重要伝統的建造物群保存地区	2	伝統的建造物群	高岡市山町筋伝統的建造物群保存地区 高岡市金屋町伝統的建造物群保存地区
国指定文化財	22	建造物	瑞龍寺（総門、禅堂、大茶堂等）、氣多神社本殿、武田家住宅、勝興寺、菅野家住宅、佐伯家住宅
		史跡	加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）、桜谷古墳、高岡城跡
		名勝	おくのほそ道の風景地-有磯海-
県指定文化財	26	史跡	越中国分寺跡、瑞龍寺の石廟、城が平横穴古墳、木舟城跡
		建造物	筏井家住宅
市指定文化財	90	建造物	戸出御旅屋の門、五福町神明社本殿、大手町神明社拝殿、旧秋元家住宅、旧室崎家住宅
		史跡	宝篋印塔、江道横穴古墳群、弓の清水古戦場、西明寺塚五輪塔、宝性寺跡、上野の古墳群、一步の菩提樹跡、下向田古墳群、瑞龍寺境内地、赤丸城跡、鴨城跡、加茂横穴墓群、守山城跡（本丸跡）
		名勝	五位の滝の沢

注：指定件数以外は、建築物、土地に関わる主な文化財等のみ掲載

（資料：高岡市ホームページ）

課題 市街地の拡大と低密度化

- ・ S45～H27 の 45 年間で DID 面積は約 2 倍に拡大したが、DID 人口密度は 70.0→36.7 人/ha まで低下しており、市街地の低密度化が進んでいる（図 5）。
- ・ 将来人口増減では、市街地縁辺部で人口増加が続く一方、人口密度の高い中心市街地において人口減少が進むことで、市街地の低密度化がさらに進む見通しとなっている（図 6）。

図 5 DID 面積及び DID 面積の変遷

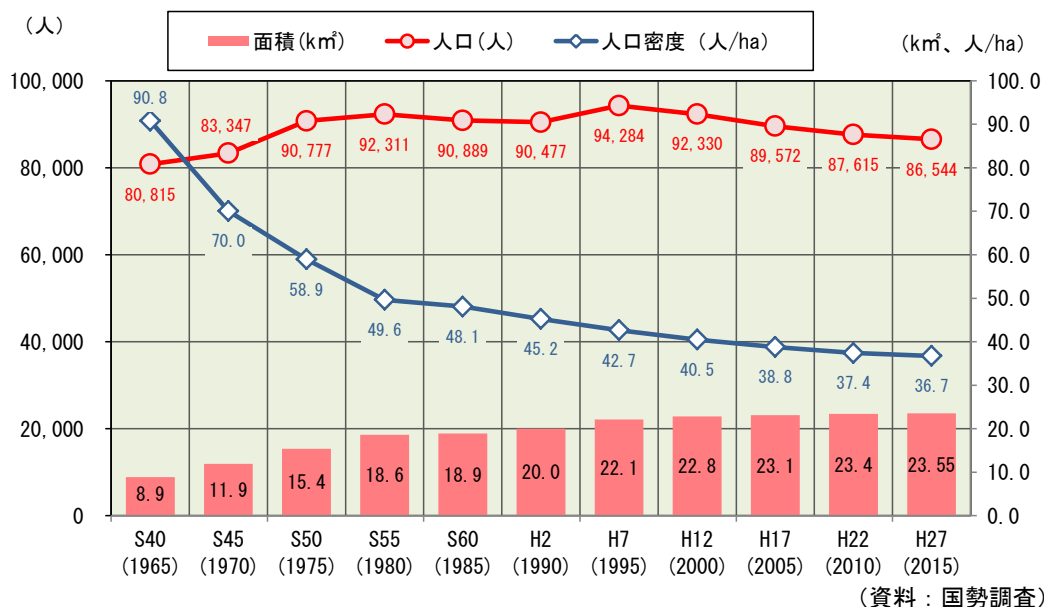
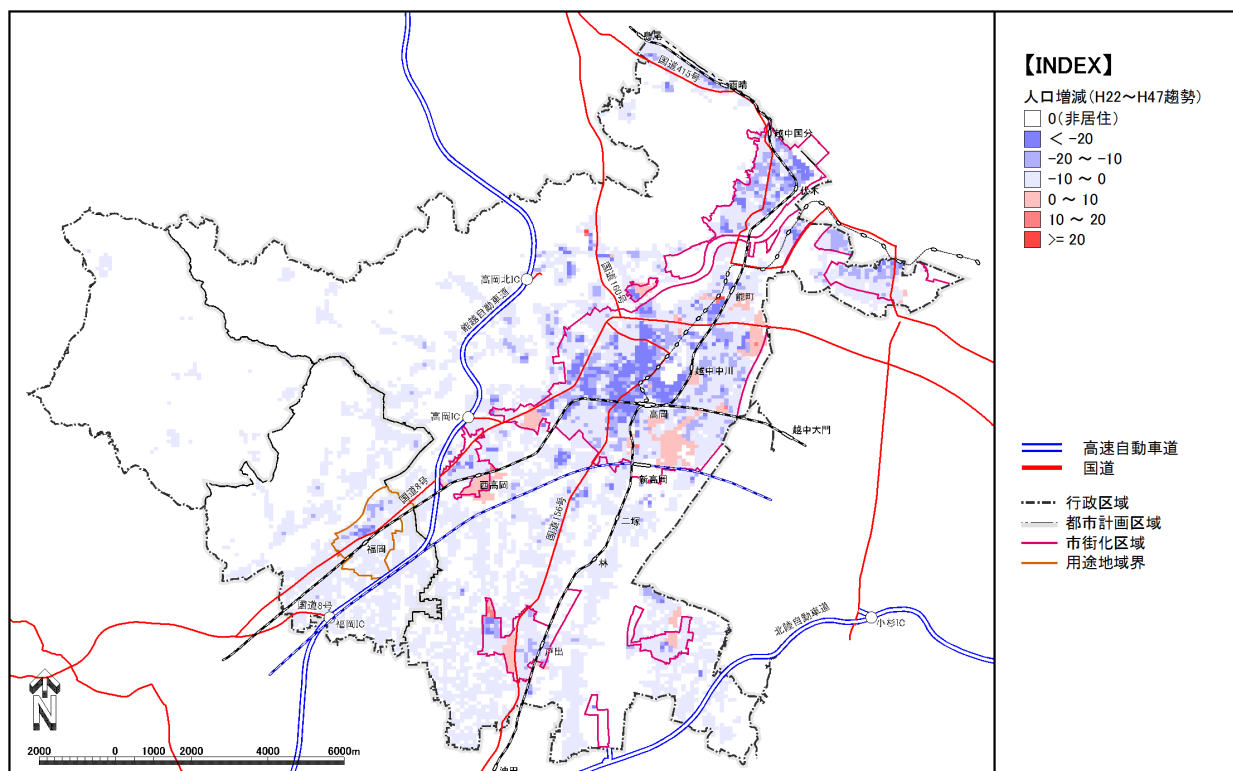


図 6 100mメッシュ人口増減 (H22～H47 趨勢)



課題 産業の競争力低下

- ・工業及び商業の事業所等の集積は県内2位であるものの、製造品出荷額及び年間商品販売額は以前より減少している（図7・8）。
- ・1事業所あたりの製造品出荷額等では県内13位（図9）、1事業所あたりの年間商品販売額も県平均以下で県内3位（図10）となっている。
- ・通勤通学では近隣都市からの流入超過状態を維持しているものの（昼夜間比率1.0以上）、昼夜間比率は低下傾向となっている（図11）。

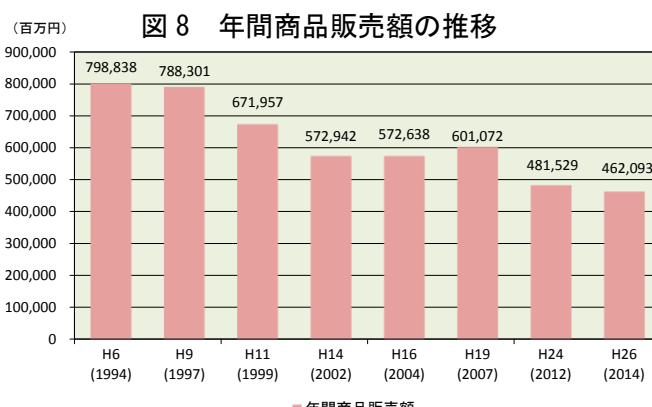
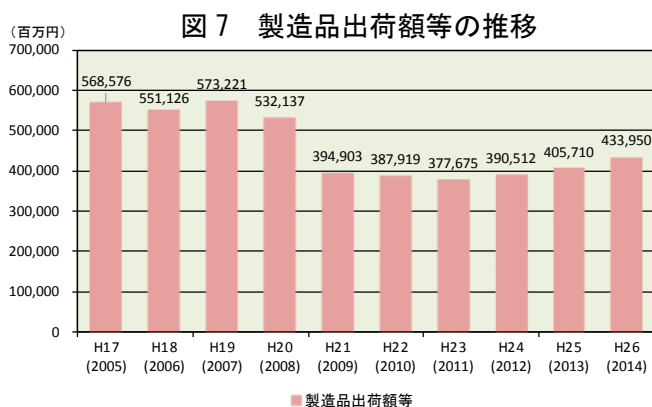


図9 1事業所あたり製造品出荷額等

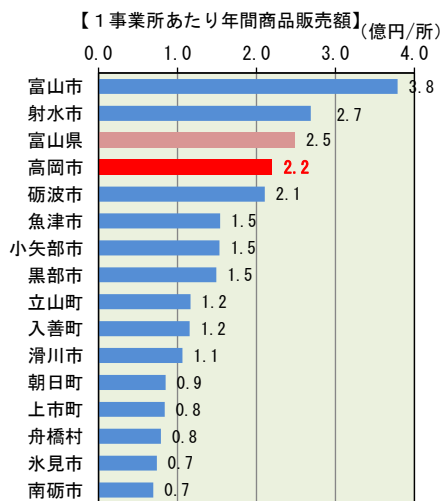


図10 1事業所あたり年間商品販売額

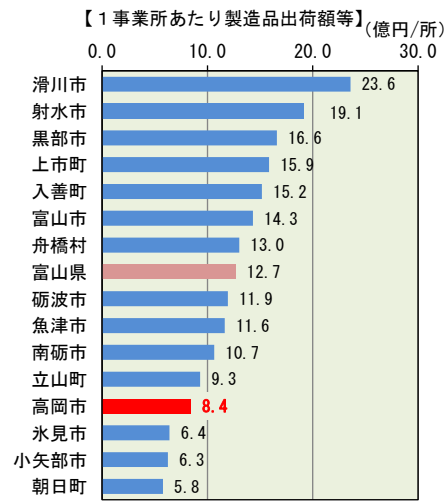
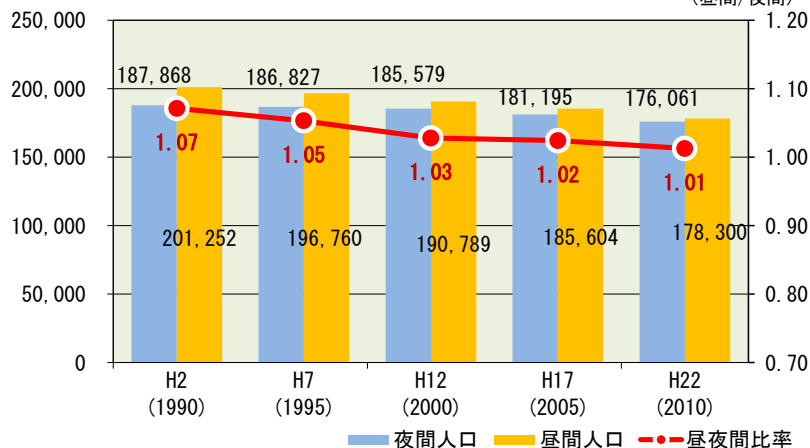


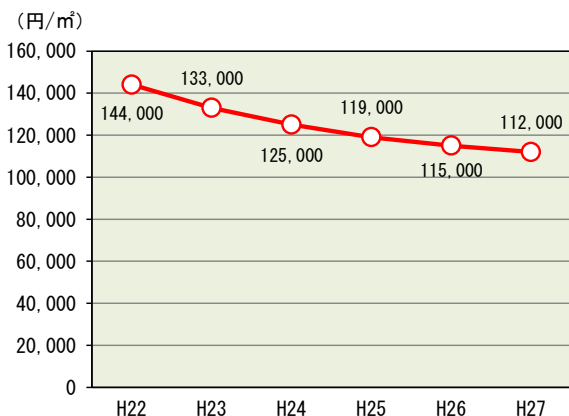
図11 昼夜間人口の推移



課題 中心市街地の衰退

- ・市内の平均地価は、全体的には下げ止まり傾向ではあるものの、H22～H27 年の間に 92% まで下落しており、中心市街地の高岡駅前末広町交差点付近では 78% まで下落している（図 12）。
- ・過去 1 年間でみると、富山市や県平均では地価の上昇が見られた中、本市の住宅地の価格は下落している（図 13）。

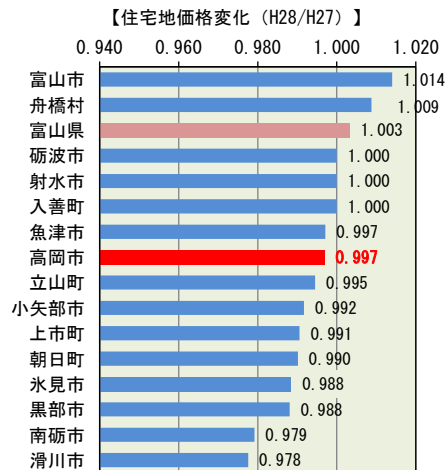
図 12 中心市街地（※）の地価動向



※高岡駅前末広町交差点付近

（資料：地価公示）

図 13 住宅地価格変化（H28/H27）



（資料：H28 地価調査の概要（富山県））

課題 市街地が抱える災害危険性

- ・庄川と小矢部川が氾濫（外水氾濫）した場合、川沿いの工業系用途地域や、高岡駅～新高岡駅間の住居系市街地で 2.0m 以上浸水する危険性がある（図 15）。
- ・土砂災害、津波浸水、洪水浸水の災害の危険性が予想されているエリア（※）内に居住する人口は、全体の 21.7% を占めている（図 14・表 6）。
- ・大規模地震時における建物全壊率が高いエリアが、高岡駅や伏木駅周辺（特に伝統的建造物群保存地区の周辺）や福岡駅周辺に分布している（図 16）。

※災害の危険性が懸念される地域は以下のとおり設定した。

- ・土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊、地すべり、土石流）
- ・津波避難対象区域（津波浸水予想地域とは別）
- ・洪水浸水想定深 2 m 以上（市内は全て 5 m 未満）

図 14・表 6 地区別災害危険エリア内人口割合（H22）

地区	エリア内人口	エリア外人口	エリア内人口割合
高陵	617	11,835	5.0%
高岡西部	6,931	9,917	41.1%
南星	9,405	11,070	45.9%
志貴野	6,999	19,279	26.6%
芳野	6,670	22,794	22.6%
伏木	3,974	10,806	26.9%
国吉	675	3,139	17.7%
牧野	1,698	7,077	19.4%
五位	203	9,755	2.0%
戸出	4	13,653	0.0%
中田	366	6,024	5.7%
福岡	633	12,537	4.8%
合計	38,176	137,885	21.7%

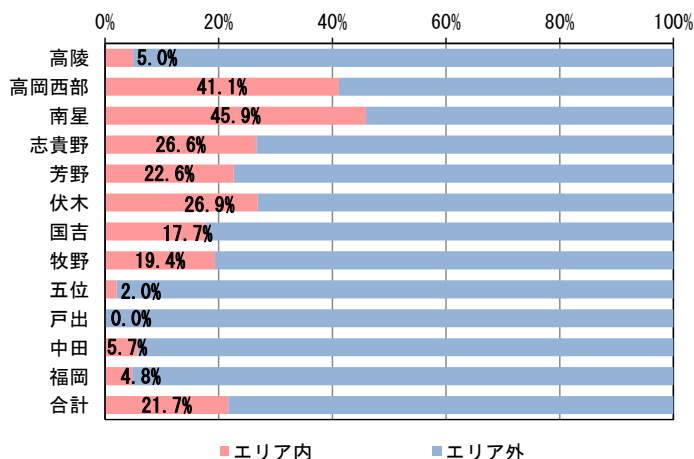


図 15 災害危険エリアの分布状況

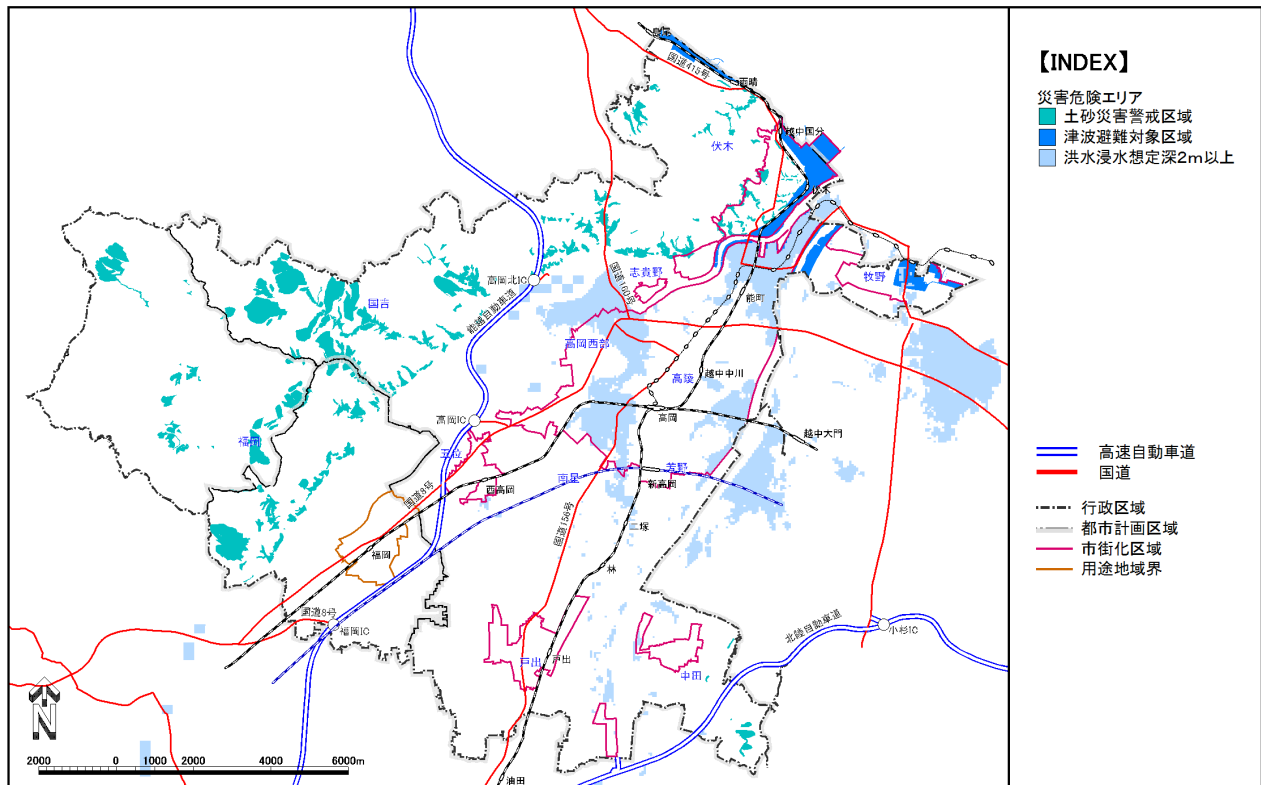
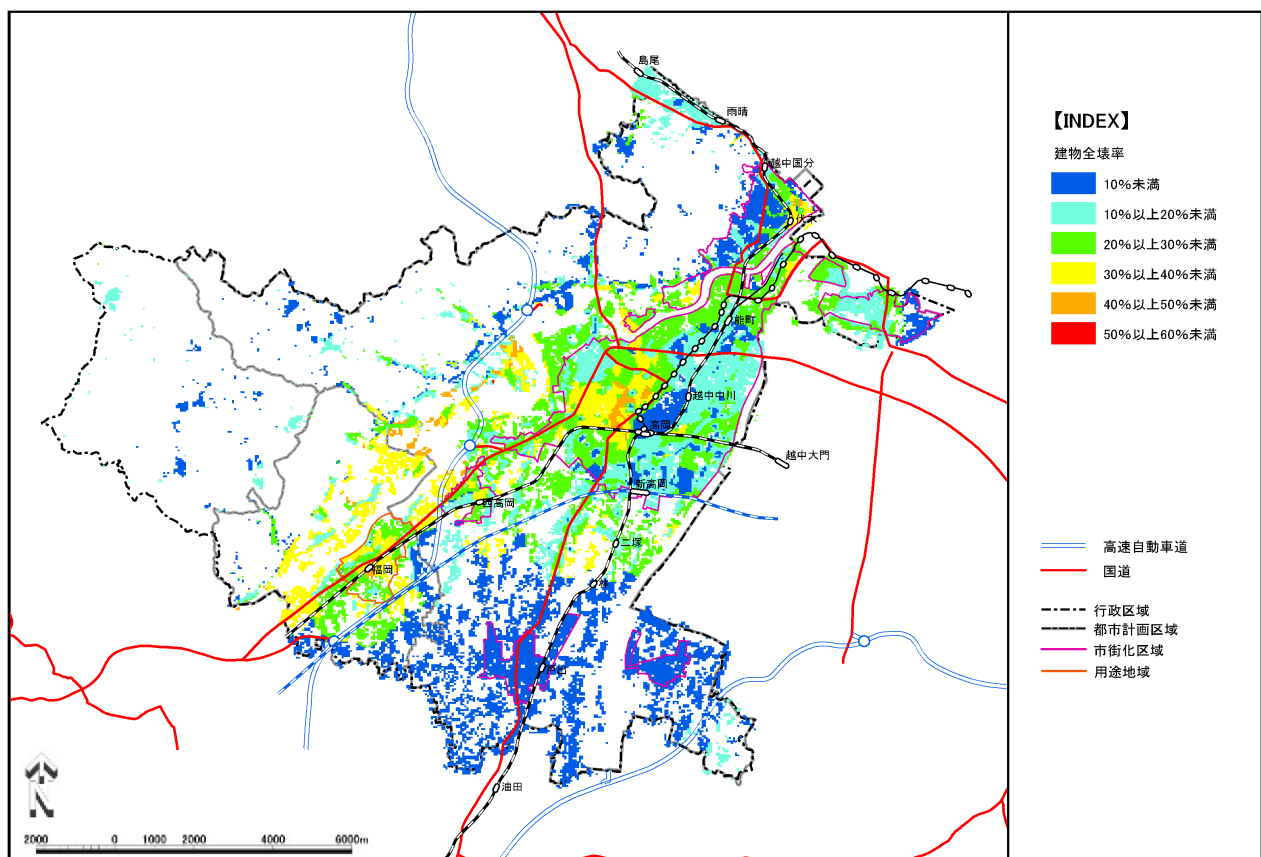


図 16 建物全壊率

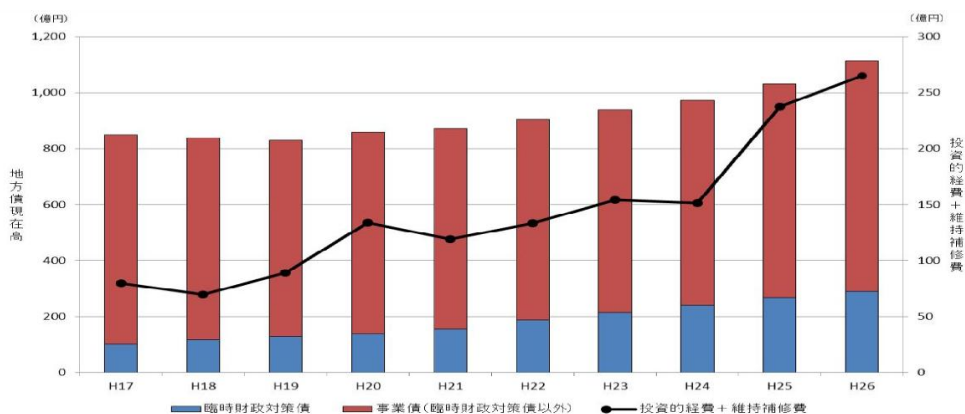


(資料：高岡市地震防災マップ)

課題 厳しい財政環境

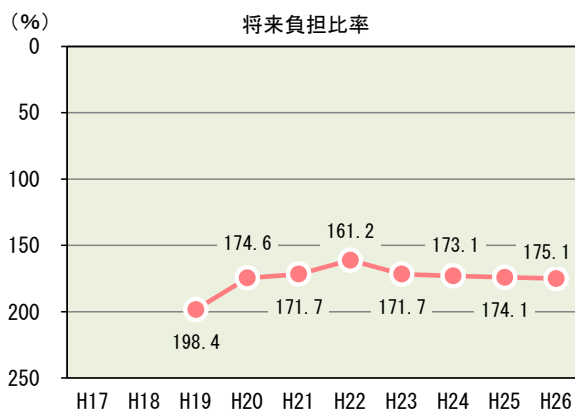
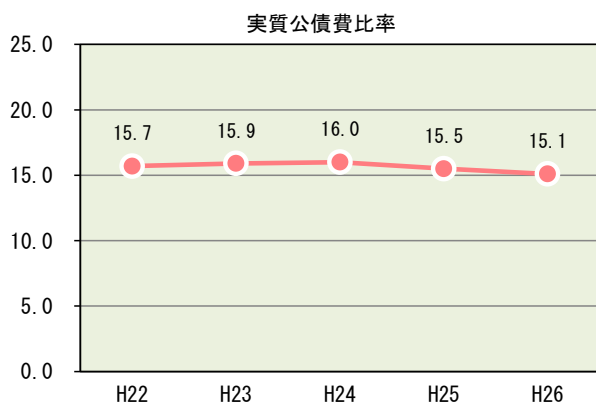
- ・北陸新幹線開業へ向けた都市基盤整備への投資により、地方債残高が増加したことから（図 17）、「実質公債費比率」（財政規模に対する返還額の大きさ）は全国類似都市と比較しても高い水準となっている（図 16）。
- ・また、将来支払わなければならない負債が、収入に対してどれくらいあるかを示す「将来負担比率」は、H26 年に 175.1 となっており、県内市部では小矢部市に次いで 2 番目に高い水準となっている（図 16）。
- ・その他、主たる納税層である生産年齢人口の減少に伴い、市税収入も低下していくことが予想されている。

図 17 投資的経費＋維持補修費と地方債残高の推移



(出典：高岡市公共施設等総合管理計画)

図 18 各種財政指標の推移



(資料：富山県平成 26 年度財政状況資料集)

(4) 都市構造分析

・今回報告した都市構造分析結果からは、本市の「強み」と「課題」を次のように整理することができる。

分析結果（再掲）

強み 「6. 公共交通の利便性の高いエリアの住宅割合」や「12. 公共交通沿線地域の人口密度」はいずれも全国平均値を上回っており、公共交通を利用しやすい環境が整っている。

課題 一方で「11. 市民一人当たりの自動車走行台キロ」が高く、「10. 公共交通の機関分担率」が低いことから、自動車依存度が高く、あまり公共交通が利用されていない。

強み 高岡医療圏の中心であり、「3. 医療施設の徒歩圏カバー率」が高いことから、医療施設の利便性は高い。また「4. 福祉施設の徒歩圏カバー率」、「16. 高齢者福祉施設1km圏域高齢人口カバー率」ともに全国平均以上であり、福祉施設の利便性も高い。

課題 「9. 商業施設の利用圏平均人口密度」は高いが、「5. 商業施設の徒歩圏カバー率」が低く、地域によっては徒歩圏に商業施設が無く、利便性が低い状態となっている。

課題 「26. 空き家率」が全国平均と比較して非常に高い水準となっている。

本市の【強み】

- 公共交通の利用環境の良さ
- 充実した福祉施設と医療施設

本市の【課題】

- 自動車への高い依存度
- 徒歩圏内での商業施設不足
- 空き家の増大

(5) 都市計画上の課題のまとめ

・ (1) ~ (4) で整理された課題から、本市の都市計画上の課題は次のように整理することができる。

上位計画	○〈文化力〉底力を見せる町民文化 ○〈創造力〉「稼ぐ力」を持つものづくり産業 ○〈市民力〉高い地域力が生む住みやすさ
住民意向	○災害危険性の少なさ ○豊かな自然環境 ○買い物の便利さ ○土地への愛着
都市概況	○県内2位の産業集積 ○広域及び地域交通基盤の充実 ○都市基盤の充実 ○多くの歴史・文化資産
都市構造分析	○公共交通の利用環境の良さ ○充実した福祉施設と医療施設
上位計画	○若者世代が共感する活力創出（若者の流出） ○中心市街地のリノベーション（「たかまち」の空洞化） ○周辺市街地の躍動（地域の拠点性の弱体化） ○高岡駅・新高岡駅の相乗的利活用（交通結節機能の分散） ○ものづくり産業の復興（製造業の低迷） ○地域力の再構築（地域のつながりの希薄化）
住民意向	○通勤・通学の交通が不便 ○商業施設や娯楽施設の少なさ ○積雪・雨の多さ
都市概況	○市街地の拡大と低密度化 ○産業の競争力低下 ○中心市街地の衰退 ○市街地が抱える災害危険性 ○厳しい財政環境
都市構造分析	○自動車への高い依存度 ○徒歩圏内での商業施設不足 ○空き家の増大

●高岡市の「強み」

- 多くの歴史・文化資産
- 都市基盤（公共施設、インフラ）の充実
- 高い交通利便性（広域交通・公共交通）
- 県西部中核都市としての産業や機能の集積
- 市街地を取り巻く豊かな自然環境
- 災害の少なさに対する住民からの評価

●高岡市の「課題」

- 中心市街地の衰退（人口減少、賑わいの低下）
- 日常生活圏での商業施設の不足
- 十分に活用されていない交通基盤
- 広域的な拠点性や産業の競争力の低下
- 郊外部における低密度な市街地の拡大
- 市街地の一部に含まれる災害危険性

●都市計画上の課題

- 基盤施設や生活サービス施設が整備された既成市街地の維持
- 中心市街地の活性化や分散した各市街地における生活利便性の確保
- 地域産業の競争力向上や労働力人口の減少
- 広域交通基盤の整備や交通需要の変化への対応
- 豊かな自然環境や歴史・文化資産の保全と継承
- 防災施設の整備や災害リスクを考慮した市街地形成

○ **基盤施設や生活サービス施設が整備された既成市街地の維持**

- ・ 様々な都市機能が集積し、利便性の高い既成市街地において人口が減少しているため、これまで整備してきた既存ストック（公共施設、インフラ）を最大限に活かして歳出を抑制するとともに、まちなか居住をさらに推進することが必要。

○ **中心市街地の活性化や分散した各市街地における生活利便性の確保**

- ・ 長い年月の間人々の交流の場であった中心市街地における賑わいが低下しているため、中心市街地が持つ拠点性を活かすとともに、新幹線開業効果や日本遺産認定等を最大限に活用して、人々の新たな交流を創出することが必要。
- ・ 本市の都市の特徴として、高岡市街地のほかに、それぞれの歴史や特性を有する複数の飛び市街地が形成されていることから、日常生活を送る上での利便性や快適性の向上など、地域間のバランスの取れた都市づくりが必要。

○ **地域産業の競争力向上や労働力人口の減少**

- ・ 本市の基幹産業であるものづくり産業（製造業）や商業等における競争力低下が懸念されており、新たな企業や店舗、さらに従業者や購買客を市内に呼び込むことが必要。
- ・ 労働力人口の減少を見据えて、魅力のある雇用の場の創出を図るとともに、多くの人にとって働きやすい環境を整備することが必要。

○ **広域交通基盤の整備や交通需要の変化への対応**

- ・ 北陸新幹線と2本の高速道路という広域交通基盤を活かし、広域間及び地域間を効果的にネットワークする交通網の再編・強化必要。
- ・ 交流人口の拡大、さらに自動車を利用できない高齢者の増大を見据えて、徒歩や公共交通によって移動可能な環境を整備することが必要。
- ・ 地域間連携を図るため、既存の公共交通基盤を効果的に活用することが必要。

○ **豊かな自然環境や歴史・文化資産の保全と継承**

- ・ 住宅取得が比較的容易な郊外部において低密度な市街地が拡散していることから、都市的土地利用と自然的土地利用の調和とメリハリのある土地利用を展開することが必要。
- ・ 市内に分布する多くの歴史・文化資産を保全・継承するため、これらの活用を図るとともに、高岡の文化力を活かした取組を展開することが必要。

○ **防災施設の整備や災害リスクを考慮した市街地形成**

- ・ 災害が少ないという住民意識がある中で、想定される様々な災害リスクに対して、被害を軽減するための防災施設の整備や防災まちづくりを進めるとともに、災害に対する安全性を重視した土地利用を推進することが必要。